

病害虫発生予察特殊報 第8号

害虫名：ニセタマナヤガ
学名：*Peridroma saucia* (Hübner)
発生作物：レタス、セルリー等の葉洋菜類

1 発生確認経過

平成22年6月、東信地方のレタスにチョウ目昆虫の幼虫による被害が発生した。幼虫を採取し、県野菜花き試験場佐久支場で調査したところ、ニセタマナヤガであることが判明した。

本種はその後7月から11月にかけて、県内複数地域のレタス、キャベツ、はくさい、セルリー等の葉洋菜類でも発生していることが確認された。

本種は海外では、カブラヤガやタマナヤガとともに、主要なネキリムシ類の一種として知られている。しかし、日本国内においては、1976年に大阪府で発生が認められ、その後も各地で確認されているものの、農業害虫としての記録はほとんどない。

過去に県内で採取された標本についても、2005年に(独)農業環境技術研究所においてニセタマナヤガであることが確認されていた。

今回レタスにおいては、結球部を食害し商品性が著しく損なわれる被害を生じること、さらに県内各地のレタスやセルリー等の葉洋菜類産地で広く発生していることが確認されたため、特殊報とした。

2 形態

若齢幼虫(1齢~2齢)はオオタバコガ、3齢幼虫以降はヨトウガに類似する(図1、2)。本種は背中に一列の白い斑点がある点で、他の類似種と区別することができる。また、他のネキリムシ類と同様に、外部から刺激を与えると丸くなる。成虫には二型があり、多くは前翅が赤銅色であるが、一部に淡灰褐色の個体がみられる(図3、4)。



図1 若齢幼虫



図2 老齢幼虫



図3 成虫（赤銅色型）



図4 成虫（淡灰褐色型）

3 生態と被害

卵はヨトウガのように卵塊で産下される。幼虫は作物株上に生息し、葉、芽および果実等を食害する。他のネキリムシ類は、中齢期以降は夜行性で昼間は土中に隠れているが、本種は中齢期以降も日中に株上で食害を続ける。老齢幼虫は地際部も食害する。

レタスでは結球部、セルリーでは葉柄基部内側を食害するため発見が遅れ、さらに他のチョウ目害虫の被害と誤認するおそれがある（図5、6）。

本種は南北アメリカ、ヨーロッパ、中国等に広く分布し、キャベツ、ジャガイモ、トマト、オレンジ、トウモロコシ等、様々な作物を加害する。



図5 レタスの被害



図6 セルリーの被害

4 防除対策

- (1) 現在のところ、ニセタマナヤガを対象とする登録農薬はない。
- (2) 新葉や芽の付近を食害するため、葉野菜類では発見が遅れないよう注意する。

長野県病害虫防除所
所長：宮島明博
担当：武井正明
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-6473
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp